龍ケ崎市市民活動センターだより VOL.174

2024年2月号

# ひびき

発行枚数 650枚 メール配信 100団体
発行人 指定管理者NPO法人茨城県南生活者ネット 龍ケ崎市市民活動センター長 島村宏之

市民活動状況
（12月末日現在）

| | |
|---|---|
| 市内NPO法人数 | 32 団体 |
| 当センター登録団体数 | 135 団体 |
| 来館者数 | 1，014人 |
| 印刷機利用枚数 | 7，828枚 |

**龍ケ崎市市民活動センターは社会貢献活動を行う団体を支援するための施設です。**
**会議スペース・作業スペース・印刷機・紙折り機・パソコン・多目的室等（1階）や**
**大会議室・小会議室・パソコン室・和室・工作室（2階）・陶芸室（1階外倉庫隣り）がご利用いただけます。**
**開館時間 ＝ 午前9時～午後7時(日曜祝日は午後5時まで)2階各室は夜間も(午後10時まで)利用可能です。**
**休館日 ＝ 月曜日および年末年始、特別に定める日**

〒301-0004 龍ケ崎市馴馬町2445 TEL 0297-63-0030 / FAX 0297-63-0571
E-mail katsudou@r-shimin.sakura.ne.jp URL https://ryugasaki-shiminkatsudo.net

## 市民団体活動紹介シリーズ №29「龍ケ崎バードウォッチングクラブ」

目指せ！市民活動日本一

### 冬こそバードウォッチング!

冬期は雑木林の葉も落ちて鳥が見やすくなります。
近くの池には数種類のカモ達も休んでいてゆっくりと観察できます。
**龍ケ崎市は自然環境に恵まれています。**
林あり水田あり、沼ありと、とても自然環境が豊かです。
市内だけで1年間観察を続ければ約80種類の鳥達に出会えることが出来ます。
**初心者の方ぜひ気楽にお見え下さい。**
自然の中を歩いて鳥を探して名前の確認や行動を観たり、また姿が見えなくても鳴き声を聞くのはとても健康的で気持ちがリフレッシュできます。
**市民探鳥会のご案内** 事前申し込み不要 直接現地へお越しください。
参加費一人50円(保険料)
**2/25日(日)** 9:00～11:30 龍ヶ岡公園 集合-たつのこアリーナ下、テニスコート東側駐車場
**3/17日(日)** 9:00～11:30 牛久沼 集合-牛久沼水辺公園駐車場

問合せ **龍ケ崎バードウォッチングクラブ 岸久司 0297-66-8238**
HPはこちらから龍ヶ崎バードウオッチングクラブ（rbwc.jp）

（2019年2月龍ヶ岡公園にて）➡
会えると嬉しいルリビタキ「幸せの青い鳥と言われています」

## りゅうがさき市民活動フェアinサプラスクエア サプラ2024

**日時：2月17日(土)・18日（日）11時～16時**
**会場：ショッピングセンターサプラ フェスタコート・光のモール**
**（1階サプラモール）**

地域の担い手として活躍している市民活動センター登録団体の活動や高校生の活動を一堂に 会して紹介します。パネル展示をはじめステージ発表（楽器演奏・歌・ダンス等）や活動体験・ 福祉団体による手づくり品の販売コーナー等、内容盛り沢山です。高校のチア リーディング部、吹奏楽部、ダンス部の発表もあります。又SDGsパートナーをさがそうラリーに参加した正解者には素敵な景品を差し上げます。
2月の17日、18日は是非、サプラスクエアにお出かけくだい。

## 龍ケ崎まちづくり・つなぐネット：1月18日（木）コミセンウォーキング「馴馬城跡周辺散策」報告

協力する団体と協力して欲しい団体の橋渡しを行う、龍ケ崎市 地域づくり推進課のまちづくり・つなぐネット事業。地域づくり推進課の管轄である市民活動センターはつなぐネットの相談を受け付けております。

1月18日（木）市民活動センターが橋渡しをしたまちづくり・つなぐネット事業、コミセンウォーキング「馴馬城跡周辺散策」が行われました。主催が八原まちづくり協議会そしてNPO龍ケ崎建物保存会が協力する形でイベントが行われました。

当日は絶好のウォーキング日よりで八原まちづくり協議会から20名、NPO建物保存会から2名、そして市民活動センター1名、市・地域づくり推進課1名の計24名が参加しました。案内人は協力団体NPO龍ケ崎建物保存会代表の前田さんが務めました。

コースは市民活動センター→日枝神社→弘法太子堂→常光院→大鷲神社跡→重要文化財多宝塔→お浜→馴馬城跡→歴史民俗資料館→4号機関車→澤ゆき詩碑→市民活動センター。

以上、約3キロの道程を資料片手に2時間30分かけて歩きました。歴史民俗資料館では学芸員の油原さんに20分程度解説していただきました。

今回の圧巻は馴馬城跡。普段人が通らない正面虎口からの登城で、そこはまるで獣道。倒れた竹などの障害物をかき分けての大変なコースでした。参加者の皆さまには頑張って登城していただき、面白かったと反響は上々でした。

こうした市内の史跡巡りをご希望の団体がご座いましたら市民活動センターにご相談ください。

## 龍ケ崎ヒストリー第17回「竜ヶ崎街道踏切と源橋」

昭和初期の県道竜ヶ崎潮来線（現県道5号線）は、国道6号線（現県道208）の小通幸谷町字北浦の文巻橋東詰が龍ケ崎側の起点となっていました。ここから右（佐貫方面に向かって）に坂を下り陸前浜街道（旧水戸街道）と重複する形で小通幸谷集落を通り、竜ヶ崎街道踏切を渡って龍ケ崎市街地に向かうルートでした。そして、この道が国道6号線から龍ケ崎市街地に向かう重要な道であり、小通幸谷の踏切には竜ヶ崎街道踏切と名前が付けられました。

昭和30年代になると、開発が進む鹿島臨海工業地帯や関東最大の穀倉地帯水郷と東京を結ぶ重要路線として交通量が爆発的に増加し、竜ヶ崎街道踏切は渋滞と事故が多発し、魔の踏み切りといわれるようになりました。

この踏切を回避するため、昭和33年（1958）龍ケ崎市は沿線市町村を巻き込んで関係所管に改善を呼びかけました。その結果、国と県、国鉄（現JR東日本）は立体交差にするための跨線橋の建設を行いました。また、この工事に合わせて県は県道竜ヶ崎潮来線の全面的な舗装工事を行いました。工事は大規模となり4年の歳月を要し昭和37年（1962）に完成しました。

立体交差完成に伴い、竜ヶ崎潮来線の起点が500mほど佐貫寄りよりに変更され、小通幸谷町字中通（小通幸谷交差点）の諸岡本社（現Qisモール）の所から大きく鋭角に回り（藤代方面から）龍ケ崎市街地に向かう、つまり現在のルートに変わったのでした。

なお、立体交差のために建設された跨線橋は地域発展の起源となるように、また、この事業に尽力された当時の市長荒井源太郎氏の源と、二つの意味を込めて源橋（みなもとはし）と命名されました。

源橋（龍ケ崎市駅入口交差点）→

## 龍ケ崎短歌会

「もうぬげない」ヌメント・モリ」との出会いあり男の孫と見る童話の世界　高藤　朱美

女孫らがかけっこをする足音の耳に残りて厨くれゆく　塚本　節子